

令和 7 年度

「運営に関する計画」

年初計画

大阪市立田中小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立田中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標 (令和8年度末までに達成を目指す目標)

現状と課題

「豊かな心を持ち、経験や体験を大切に、基礎基本を基に自ら考えて行動できる『たなかの子ども』の育成」を中期目標に掲げ、基礎基本の定着に向けて取り組みを進めてきた。児童の学校生活態度は落ち着いており、いじめについては、早期発見・早期対応により、深刻化しないうちに解決できている。しかし、不登校児童は毎年一定数いる現状がある。

学力については、対話的な学びに重点を置いた校内研究実践により、学習中の話し合い活動への取り組みは年々充実し、経年調査の話し合い活動についての質問に肯定的に回答する児童の比率は、3つの学年において大阪市平均を上回った。経年調査の平均正答率は、全国と比較して、2つの学年が上回り、2つの学年が下回ったが、前年度と比較すると全ての学年が上昇している。

体力については、隣接するスポーツ施設を活用する取り組みを続けてきている。運動能力調査において、大阪市平均を上回る結果となった。

ICTの活用については、デジタルドリルの積極的な活用や授業中の発表ツールとしての活用に努めているが、まだ、十分ではない。

働き方改革については、行事や会議の見直し、専科制の取り入れや定時セットデーの設定により、時間外勤務時間は大阪市平均を下回っているが、まだ、十分ではない。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 全国学力学習状況調査の児童質問紙「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した朝学習を週2回以上実施する。
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。
- ICTを授業で日常的に活用する。
- 「ゆとりの日」を毎週設定する。
- 教職員一人当たりの時間外勤務時間を月平均22時間以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85.9%以上【前年度 85.8%】にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.2%以上【前年度 76.1%】にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上【前年度 42.8%】にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上【前年度 70.8%】にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を前年度以上【前年度 68.2%】にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立田中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85.9%以上【前年度85.8%】にする。 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76.2%以上【前年度76.1%】にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】 ○いじめ（いのち）について考える日での指導、情報モラル教育の全学年での実践などを行い、いじめの未然防止に努める。 ○いじめの早期発見・解決のために、定期的にいじめアンケートや児童支援委員会を行ったり、スクールライフノートの相談申告機能を活用したりして、全教職員の共通理解のもと、組織的に対応し解決を図る。	
指標 ・児童アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。(R4:80.9%、R5:87.0%、R6:91.6%、R7: %)	
取組内容②【豊かな心の育成】 ○児童会活動を中心とした異学年交流やキャリアパスポートの活用により、自己肯定感を高め、自分のよいところに積極的に気づける子どもを育成する。 ○ゲストティーチャーによる豊かな体験活動の実施により、一人ひとりの違いを認め合える集団作りに努める。	
指標 ・年間3回以上、学期末や行事ごとに、キャリアパスポートを活用する。 ・児童アンケートの「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。(R6:81.0%、R7: %) ・各学年でゲストティーチャーによる豊かな体験活動を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
中間/年度末/次年度への改善点

大阪市立田中小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上【前年度 42.8%】にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上【前年度 70.8%】にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学びチェックシートの活用や学習の振り返りを設定することで、学習意欲を高め学力の向上を図る。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びにつながる、ICT を活用した指導法の工夫する。</p>	
<p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を前年度以上にする。</p> <p>(R4:47.5%、R5:49.0%、R6:62.8%、R7: %)</p>	
<p>取組内容②【健やかな体の育成】</p> <p>○がんばりカードの活用や強調週間の設定による日々の運動に対する工夫により体力・技術の向上を図り、運動やスポーツの楽しさを実感する児童を育成する。</p>	
<p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を前年度以上にする。</p> <p>(R4:71.0%、R5:75.2%、R6:69.9%、R7: %)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
中間/年度末/次年度への改善点

大阪市立田中小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教職員の割合を前年度以上【前年度 68.2%】にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【教育 D X の推進】 ○朝の学習タイムのうち週 2 回をデジタルドリルタイムとするとともに、タブレットを児童が持ち帰る機会を月 2 回作ることで、児童が日常的にタブレットを活用できるようにし、情報機器活用能力を高める。 ○授業で ICT を活用する場面を増やし、1 日 1 回は ICT を活用する。 あわせて、『こころの天気』の日々入力(朝の入力をルール化)、児童用デジタル教科書(5,6 年用)の活用を進めていく。	
指標 ・デジタル教材を活用した朝学習を週 2 回実施する。 (週 1 回実施 R5:10/10 学級) (週 2 回実施 R6:10/10 学級、R7: /11 学級) ・学習者用端末を活用した家庭での学習を月 2 回実施する。 (月 1 回実施 R5: 10/10 学級) (月 2 回実施 R6: 10/10 学級、R7: /11 学級) ・ICT を利用した学習を 1 日 1 回以上実施する。 (日 1 回以上実施 R5:10/10 学級、R6:10/10 学級、R7: /11 学級) ・『こころの天気』の 1 日 1 回以上の入力(朝の入力をルール化)を行う。 (日 1 回以上の入力 R7: /11 学級)	
取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○「ゆとりの日」を毎週設定し、その日は午後 6 時までに退勤するようにする。 ○時間外労働時間・年休取得日数の見える化を図り、教職員の意識向上を図る。	
指標 ・「ゆとりの日」を毎週設定する。 (R5:毎週設定、R6:毎週設定、R7:毎週設定) ・教職員一人当たりの 4～12 月の時間外勤務時間を月平均 23 時間以下にする。 (R5:22.9 時間、R6:21.6 時間、R7: 時間)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
中間/年度末/次年度への改善点